

議事録

件名	明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第1回 里地里山保全利活用専門部会
日時	平成26年6月2日(月)14:00~16:30
場所	明治大学黒川農場 本館1階 1-102 会議室
出席者	<p>明治大学黒川農場 三谷客員教授 里地里山保全団体(はるひ野黒川地域交流センター) 野島会長 神奈川県横浜川崎地区農政事務所 小嶋地域農政推進課長 川崎市経済労働局農業振興センター農業振興課 永江主任 川崎市経済労働局農業振興センター農地課 古山保全係長 川崎市経済労働局農業振興センター農業技術支援センター 久延係長 川崎市麻生区役所企画課 蛭川泰行 川崎市麻生区役所道路公園センター整備課 高橋担当課長 (事務局) 建設緑政局緑政部みどりの協働推進課 古屋担当課長 青柳担当係長 コンサルタント(URリンクージ 正司主幹、遠藤課長補佐、河西係長、岸本)</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 里地里山保全利活用専門部会 次第 ・第1回 里地里山保全利活用専門部会 資料1 名簿 ・第1回 里地里山保全利活用専門部会 資料2 座席表 ・第1回 里地里山保全利活用専門部会 資料3 第1回専門部会 説明資料 ・第1回 里地里山保全利活用専門部会 資料4 里地里山マップ作成ワークショップ ・アンケート集計結果 (市民アンケート・農業従事者アンケート)
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・里地里山保全利活用専門部会の活動の方向性についての確認 ・今年度の取組み内容等に関する検討

1. 開会のあいさつ

2. メンバーの紹介 (自己紹介)

3. 座長の選任

4. 座長からのあいさつ

【座長】

黒川農場は、明治大学の学生の農業実習を行う為の施設として、また実習の他にもそれぞれの教員がテーマを持って研究を行っている。私は、農場実習の1つとして、里山の実習を主に担当し、昨年からは着任している。

明治大学黒川農場は「自然共生」、「環境共生」、「地域共生」の3本柱の基本コンセプトとして立てており、地元自治体である川崎市との協議会、その他の連携について、積極的に取り組んできており、今後も地域と連携していきたい。

昨年度3月の協議会の中で3つの専門部会の設置が決まり、この専門部会は今回が初めての開催となる。方向性がある中で取り組んでいく事になるが、出来るだけ地域の方と異論がないよう、結果を出していきたい。

5. 専門部会の方向性と今後の取組みについて

・専門部会の方向性についての資料説明 (コンサル)

- 【座長】 市民アンケートに基づいて話を進めていこうというスタンスをとっているが、この市民アンケートを取った主体はどこか。
- 【麻生区】 麻生区の企画課で実施した。アンケートには2種類あり、1種類目は昨年の収穫祭の際に来場者の市民に向けて行ったアンケートで、もう1種類はJAセレサを通じ農業者に向けて行ったアンケートで、黒川地域の農業従事者 70 戸弱に配布し、そのうち 44 戸から回答を得た。
- 【座長】 アンケートでは、作成時のイメージに沿った結果になってしまうという側面がある。アンケートを受けた農業従事者がこのアンケート結果や、そこから打ち出そうとしている内容について、農業従事者の意向は反映出来ているか。
- 【麻生区】 このアンケート結果は一定の目安にはなると思うが、実施にあたり、「市民農園」、「体験型農園」について重点を置いて行った為、「市民農園」、「体験型農園」中心の内容となっており、内容について農業従事者からお叱りを受けた。その為、出来れば農業従事者の希望を深掘りしたい。
- 【座長】 農業地域は、農業従事者同士の暗黙の了解で行っている事柄が非常に多い。水管理など、1人が抜けると周りが迷惑をするような事が多くあるので、単純に賛成80%反対20%だから前に進んで良いという訳にはいかない事が多い。地域の農業従事者の中に一部でも反対があれば、慎重に取組んでいかなければならない。
- 【保全団体】 アンケート実施時、私は町内会長だった。アンケート実施に関して異論はなかったが、設問の内容に疑問を持ち提出しなかった。他にも同じ理由から多くの人たちが出さなかったと言っているの、このアンケートを元に取り組みを行うのは時期尚早である。しかし、この会議は里地と農業と地域を考えるという事なので、どのように具体化をしていくか検討するのは良いと思う。
このアンケートについては、農業従事者の意見は反映されていないので、こちらで内容の練り直しを行うか、もう一度アンケートの取り直しが必要。
アンケートの内容に「市民農園」とあるが、この地域では、だいぶ早い時期から「貸し農園」が行われている。あえてそこに「市民農園」を作るメリットと需要があるのかを考えないと、先が考えられない。そのような事から農業従事者は、このアンケートに対し疑問を持ったのだと思う。
- 【座長】 地域をどうしていくかは、地域の人が決める事。決めた事が守られるかどうかは、決め方の中に地域の意見がどのくらい含まれているか、地域の人々が、自分たちの計画として承認しているのかがポイントになる。役所の役割は大切だが、最後まで「地域の意見をまとめる」というスタンスでこの会議を進めていくべきである。

・今後の取組みについての資料説明（コンサル）

- 【農業振興課】 今回の話を、誰が農家や地元の説明に行くのか。
- 【協働推進課】 この部会では、保全された緑地を活用し、どのように活性化をしていくことが出来るかを視点に人選をした為、営農者の方は部会委員としては入っていない。
- 【麻生区】 地域活性化部会では町会の方に入って頂いているし、協議会の方には生産者団体の代表者の方になって頂いている。今お話ししたような内容はその方々を通して伝わるようになっている。
- 【農業振興課】 では、今日の話も協議会経由で伝わるのか。

- 【麻生区】 6月末に協議会を行うので、その際に話が伝わる。
農業従事者の意向、考え方など、ニーズの掘り出し作業が今後必要だと思われるので、今後丁寧に、個別にヒアリングを行いたいと考えており、そこで説明していきたい。
- 【保全団体】 この会の全体が見えてこない、地元の説明ができない。別途地元の説明が必要である。このまま進むと、地域での結成感が無くなってしまう。
- 【座長】 一番心配なのは、後に何が残るか。何か1歩を踏み出す時、それが小さな一歩でも、無駄にならない一歩としたい。その為には、地域の了承がポイント。
都市住民だけでなく、地域の住民も里地里山の大切さは分かっている。その良さを認めて一緒にやっという同意が持てるかどうかを意識していきたい。
- 【保全団体】 外の人が入り込んでくるという認識を持っている人が多くいる事は確か。
まず、地元と話をした方が良い。
良い意見というのは地元から出てくる意見を活かして、作っていかねば出来ず、企画は長続きしない。
生産者とは関係ない企画を作り、それと一緒に考えていくという方法もある。
原則としては、農地や山林を持っている地元の人たちと一緒に出来る内容を考える事が必要。地域住民を無視して行くと後で痛い目に会う。
もう1回2回会議を重ね、地元の参加者がこの企画に理解と共有が必要、今の状況で2回目に「ではこれを企画しましょう」と言われても内容が掴めない。
代表として出た以上、地元の方との意見を聞かないうちには私も何も言えない。
この内容を6月中に結論付け、協議会にかけるのか。
- 【麻生区】 今年度末までに基本計画をつくる予定である。
各部会は5月中～6月で行い、その中で取り組みの方向性を協議会に図り、確認を行う。協議会が終わった後に、具体について各部会で調整して進めていく。まだ素案の段階で取りあえず進めていき、地元の話を入れながら固めていく事をイメージしている。
- 【保全団体】 そのような構想ならいい。
- 【麻生区】 行政の方で一方的に進めていこうとは思っていない。行政も一定の役割は果たすが、地元の方たちをお願いする事もある。
- 【座長】 一般的に都市に住んでいる人は、里地のような景観の大切さを感じとり、そこで散策をしたいという気持ちが強い。行政対象の多くの人たちが望んでいるので、それに対応し案内用のマップを作る事はあるべき姿である。ただマップを作った先に色々な問題が想定される。
マップを作る事を目的にするのではなく、マップを作っていく中で地域の意見の吸い上げをし、最終的なマップの用途を含め地元の人たちと相談すれば良い。今後の進め方については、注文が出る前提でやっという形ではよろしいですか。
- 【保全団体】 これまでも麻生区観光協会でもマップを作っているのでは。
- 【麻生区】 作成しているが目的が違う。マップを作るとすると、目的がありそれに沿ったマップを作る事になる。
- 【保全団体】 マップ作りから始める事に関して疑問がある。
- 【コンサルタント】 マップをつくるというのは、単に散策マップを作るのではなく、問題のある場所を部会

員や地元の方と共有化する事でもある。

- 【保全団体】 マップを作るなら、みんなで歩いた方が良い。黒川は山が多いので、大きな粗大ごみを捨てられてしまう場所もある。昔、明治大学から国士舘大学に抜けていく道で大規模に不法投棄物を出した事があり、もうあのような場所にしてはならないという気持ちでいる。里地里山というのは、ゴミが捨てられやすい環境にある。
- 【麻生区】 アンケートにもゴミの投棄を危惧するものがあった。
- 【保全団体】 散策マップをつくとゴミの捨てやすい場所を教える事にもなる。地元の人間としては、マップを作成してイベントの時などに使うのは良いが、大々的に配布して欲しくない。
- 【支援センター】 ゴミが捨てられてしまった際は、どのように対処を行っているのか。
- 【保全団体】 今は町会で春と秋に美化活動を行っている。その際に見つかったものは、1カ所に集め、回収し、処理をしてもらっている。
- 【農地課】 今まで農地や山林の環境は、農家の経済活動により維持されてきた。この場所が綺麗なのは、農業による経済活動がずっと昔から行われてきたからである。しかし、緑政部の土地が増えてきている中、ある程度外の人が入って来られるような仕組みを作っていかなければならないし、そこで起こる問題を解決していかなければならない。
- 【保全団体】 綺麗にしていると、ゴミが捨てられなくなる。人が大勢来ても「捨てられない」環境を作る事が大切。もし、マップにルートを設定したら、その道については草刈りを行う等、常に綺麗にしておく事が必要。マップを作る事で、ゴミを捨てられてしまう可能性がある。その対応策まで考えて地元へ説明することが必要。
- 【協働推進課】 収穫祭に合わせて一緒にゴミを拾ってもらおうウォーキングを試行的に行う事で地元の理解を得ていく取り組みはどうか。
- 【座長】 何かを行う時に、地域の人と一緒にやっていく内容になっているかがポイント。マップをつくるにしても、地域の人たちに納得してもらい、地域の人が「一緒にやろう」となる事が重要。
- 【保全団体】 ここで議論をした内容について、地元で報告をしないと、役所の人が一軒一軒回っても良い意見は得られない。我々地元で役員になった者が、もっと細かい説明を出来るような内容とし、私にも説明の出来るものにしてほしい。イベントを行えば、地域外からは喜んで来ると思うが、その時細かな話が出来ていないと、私も地元へ帰ってから説明が出来ない。

6. 黒川地域の情報共有化のための里地里山マップ作成ワークショップ

黒川の要素についてと、今回の取り組みに欠けていたと思われる事柄や、今後の進め方について2班に分かれてワークショップ

・2班に分かれてワークショップ

・各班の発表

A班【協働推進課】・散策路は数多く設定するのではなく、メインコースと短時間で歩けるショートコースの2つくらいの設定がよい。

・マップ作成に関しては、ゴミ捨て、市有地の畑や民家の敷地に入るといったマナー

に関する懸念事項への対応も考えていくべきである。

- ・「ゴミ捨て禁止」というような、強い言葉でのマナー啓発ではなく、良心に訴えかけるマナー啓発の方が有効である。
- ・啓発物については、地域の小学生の絵や文字を使ったマナー啓発も考えられる。
- ・里地里山に直接関係のない人たちの呼び込みも兼ねて、芸術作品を見ながら、里地里山を見て頂くという、緑地での美術作品の展示を行う事も考えられる。
- ・緑地の道路際などを綺麗にしておかないと芸術作品も活かしていけないので、芸術作品を置く事で、周りの景色もきれいになり、保全活動にもつながり、ゴミを捨てる人の良心に訴えかけて、ゴミが減っていくというような間接的な効果もある。
- ・食事処について、地区内に普段から営業している所はないので、農家の方が作った料理を置いたり、レストランで食事をするような事が出来れば良い。

B班【協働推進課】・援農ボランティアが活動している拠点が2箇所あり、援農ボランティアは黒川地区ではかなりニーズがある。

- ・セレスモスが出来る前までは、直売所もいくつかあったが、今はセレスモスと、柿生直売会に集約されている。
- ・貸し農園がいくつか点在しており、色々なものが作られている。
- ・黒川の地区内には田園風景が広がっていて、かなり良い景色がある。
- ・黒川東営農団地からの農地越しにビル群が見える風景が面白い。
- ・市で小学生に稲を植えてもらうという食育の活動を、農業倉庫の前の田んぼで行っている。
- ・週末になると様々な人々が緑を求めて地区に入ってきているが、トイレの使い方が良くないということで、地元の人達で問題になっている。

7. 総括

【座長】

出た意見をまとめたものは、後ほど事務局で資料等にします。

本日の話をどうまとめ方向性を見出すか、その次のステップをどうしていくかは、今日網羅的に出た内容を整理し、その結果を見ながらもう一度みんな考えていく。

本気で色々な情報を集める為には、地元の人のお話を聞いた方が早い。この部会がどのような形で提案をしていくかを考えた時に、色々と地域について学ぶ為にも、地元の人のお話を聞く機会をもうけた方が良い。

8. 閉会のあいさつ

【佐倉座長】

本日のご意見を元に検討して進めていきたい。

以上